

2023年4月1日
臨港コミュニティ(株)

SDGsの取り組み

SDGsは2015年に国連が新たに設定した2030年に向けた「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)です。

国際社会の共通課題に対する17の目標とそれに対応する169のターゲットから構成されています。

世界規模での気候変動への配慮、貧困や飢餓の根絶、格差是正など、地球上の誰一人として取り残さない(Leave no one behind)ことを誓い、あらゆるステークホルダーの参画が期待されています。



1. 京急グループの一員として

京急グループは、「都市生活を支える事業を通して、新しい価値を創造し、社会の発展に貢献する」ことなどをグループ理念として掲げております。また、グループ理念の持続的な実現が社会と京急グループの持続可能性を高めることにつながるという考えのもと、グループ理念と不可分一体の方針として、サステナビリティ基本方針を策定しております。

臨港コミュニティは、京急グループの一員として、京急グループの理念およびサステナビリティ基本方針のもと、お客さま、地域社会等のステークホルダーの皆さまとの関係を大切にしながら、企業活動を行っております。

○ グループ理念

- 京急グループは、都市生活を支える事業を通して、新しい価値を創造し、社会の発展に貢献する
- 京急グループは、伝統のもとに、創意あふれる清新な気風をもって、総合力を発揮し、社業の躍進をめざす
- 京急グループは、グループの繁栄と全員の幸福との一致を追求する

○ サステナビリティ基本方針

京急グループは、グループ理念のもとで、「社会の持続的発展への貢献」と「京急グループの持続的発展」のよりよい循環を目指します。

＜テーマ＞

- 人・社会・地球にやさしく持続可能な都市生活を創造します
- 多様な人財が活躍する企業を実現します
- 全ステークホルダーと適切な協働を図り、コーポレートガバナンスの持続的な強化を図ります

京急グループは、グループ理念のもと、企業価値および社会価値の向上を目指し、事業活動を推進しており、さらなる価値向上および持続的な成長に向け、重要課題（マテリアリティ）を設定しています。

重要課題



● 京急グループとステークホルダーとの関係



京急グループは、すべての事業活動においてステークホルダーとの関係性を重要視しており、相互コミュニケーションや積極的な情報開示などを通じて企業価値・社会的価値の向上に努めています。

2. 当社の経営方針

(1) 私たちは、活力ある企業活動を通じて、地域社会の発展向上に貢献する。

(2) 私たちは、社会的責任を十分に自覚し、お客様第一に、親切なサービスをモットーとして、使命を完遂する。

(3) 私たちは、法令と共に社会規範を重んじ、友愛の精神に基づき、一致協力して会社の繁栄と、社員の幸福増進に努力する。

3. 当社の各事業について

(1) 不動産事業



不動産事業では、安心して取引いただけるよう、きめ細かく対応するとともに、入居者様の安全のために建物の状態を定期的にチェックし、異常があれば、迅速に修繕する体制を整えています。



(2) 乗車券販売事業(リテール業)



臨港バス乗車券(定期券)・川崎市敬老福祉パス等の発券やお客様案内業務を通じて、すべての人に公共交通機関の利用促進による乗るエコに貢献します。

また、安心かつ丁寧で分かりやすく、お客様のご要望に対して的確にお応えできる便利な窓口対応に努めます。



(3) 商事業



商事業では、お客様に安心してご購入いただけるよう、取扱商品の品質と安全性をしっかりと確認し、分かりやすくご説明しています。また、中古バス販売業務・自動販売機事業を通じてリサイクルにより廃棄の発生を抑止し再生利用に寄与します。



(4) 警備業



警備業では、大切な生命と財産を守るために、的確かつ迅速な判断を行い、歩行者や車両を安全に誘導し、交通事故の抑制に努めます。

また、様々な教育を実施し質の高い人材の輩出に努めます。



(5) 環境衛生業



環境衛生業では、単に掃除をするだけではなく、「真心」を持って丁寧に清掃を行い、適切なメンテナンスサイクルにより美観を維持管理し、快適な環境で仕事や生活ができる環境構築をめざします。



(6) 自家用自動車管理業



自家用自動車管理業では、安心かつ快適にご利用いただけるよう、道路交通法令を遵守し、事故を防ぐための防衛運転に努めると共に、アクセス向上に貢献します。



(7) 施設工事業

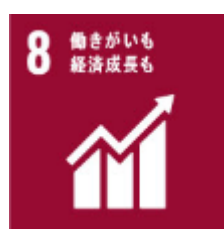
施設工事を通じ、給排水衛生設備の施工及びメンテナンス・環境保全、リサイクル等に取り組みます。



(8) 旅行業



旅行業では、旅行の安全確保を最優先課題とし、感染リスクを避けて、安心して楽しい旅行を実現できるよう、新しい日常を意識した旅行プランを提案します。



4. 就業環境について

(1) だれもが平等にやりがいを持って働ける環境づくり

①一人ひとりに合わせた環境制度づくり



『誰もが意欲を持って生き生きと働き続ける』

そのためには一人ひとりの生活や考え方に合わせて働き方を選ぶことができる環境と制度が必要です。

『インターネットを活用して、情報共有や会議の開催』

『インターネットを活用して、在宅勤務や時差出勤』



どこでも、安全に会社の仲間とつながる環境があれば、子育てや介護などの事情で家に居ながら働いたりすることも可能です。

時間や場所に縛られる事が無い環境があれば、一人ひとりの生活に合わせた働き方で働くことが可能です。

『育児や介護をしながら働く人のための支援制度や短時間勤務・所定労働日数短縮制度・休暇・休職制度』などもあり、『仕事とそれ以外の時間のバランスを取りながら、一人ひとりの考え方や生活に合わせて働くことができる環境や制度』も整えています。



また、毎週月曜日には社長以下役員と各部長が参加するミーティングを開催し、対面での情報交換にも努め社内の風通しを良くしています。

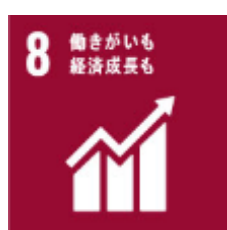


②お互いの立場や考えを尊重し合う文化をつくる

様々な意見や考え方を尊重して認め合うことができる、社内の風土や文化をつくるために、情報発信等を行っています。

個性や違いを認めて尊重し、助け合うことは、生活でも社会でも同じです。

一人ひとりの立場や考え方の違い（多様性）を認め合い、だれもが自分に合った働き方で活躍できること、それが当社の目指す「働きがいの一つ」であります。



（２）施設について

省エネ効果の高いLED照明を採用し、省エネルギーに努めています。

